

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年2月3日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.87】

沖縄の別荘を手放したのは身の危険を感じたから！

前号では、松崎氏が沖縄の別荘を、JRの労働者全体に広く利用できることが望ましいと考えて日本鉄道福祉事業協会に売却したと述べていることを紹介したが、「週刊現代裁判」の尋問では、松崎氏はまったく違う説明をしている。

(原告代理人)今帰仁の物件を手放したのはどうしてなんですか。(松崎)ですから、周りが何となくざわめいてきて、私の皮膚感覚と言いますか、感じとしまして、ここにしばらくいることは危険だなと感じましたので、それは売却の手段を取りました。(代理人)当初、沖縄にそういう身の休まるどころを得ようとしたのは、沖縄ではいわゆる内ゲバ事件というのはなかったんですか。(松崎)なかったですね。(後略)。(代理人)そうすると、沖縄でそういう身の休まることを要求したけれども、何か怪しいような動きなんかがあったということなんですかね。(松崎)そういうことです。(代理人)それで沖縄を断念して、で、ハワイにというふうになったわけですか。(松崎)そうです。

(被告代理人)日本鉄道福祉事業協会に(注:沖縄の別荘)売却した理由は何でしょうか。(松崎)これは、私が取りあえず別荘にしようと思ったんですが、その周辺が次第にいろいろとかぎ回るような胡散臭い動きがありましたので、これを手放すことにしたんですね。(中略)。(代理人)沖縄の別荘をあなたが手放すようになった直接のきっかけはどういうことでしたか。(松崎)先ほども申し上げた通り、いろいろと周囲の事情がよくないし、噂もいろいろとあるようですから、それで引き揚げました。(代理人)もうちょっと具体的に言うと、どんなことがきっかけになったのかということはありませんか。(松崎)怪しい車が付近に待機しているということを見掛けたりするようになりましたね。(代理人)あなたは、坂入さんという人を知っていますか。(松崎)知ってますよ。(中略)。(代理人)革マルの活動家ですか。(松崎)革マルの活動家とは言えないでしょうけど、革マルに入っていたことはあります。(代理人)あなたが、沖縄の今帰仁村の別荘に坂入さんをおかまっていたのではありませんか。(松崎)そういう事実はありません。(中略)。(代理人)坂入さんを泊めたことがなくても、坂入さんとの関係でこの沖縄の別荘を手放したんだということを誰かに話したことはありますか。(松崎)ありません。(代理人)坂入さんは、沖縄の国際通りで財布を落として交番に届けて、松崎さんの別荘の住所、電話番号を告げてしまったから危ないと思って手放すことにしたんだという話をしたことはありませんか。(松崎)そうですね、そういう話はしたことはないと思いますが、坂入君がなくなったり盗難に遭ったか分かりませんが、そういう事件があったことは事実ですね。(代理人)落としたかどうかは別として、そんなこともあって、万一を慮って別荘を手放したということはあるんですか。(松崎)直接その事件とは関係ありませんけどね。

松崎氏が命を狙われるのは今なお革マルである証拠ではないのか！

坂入氏の一件がきっかけかどうかはわからないが、松崎氏は沖縄の別荘の周囲で胡散臭い動きがあったので、自身の身を案じて別荘を売却したと自ら述べている。松崎氏が「個人で所有するよりは、JRの労働者全体に広く利用できることが望ましいと考えた」という説明はまったく信用できない。そもそも自分の資金かどうかは怪しいが、自らも含め内ゲバ犠牲者の保養所として沖縄別荘を購入したが、それを知られて危険を感じたので売却した、というのが本心だろう。新左翼に命を狙われるというのは、松崎氏が今なお革マルであることの何よりの証拠ではないのか。普通の労働組合役員ではあり得ない話だ。